

淀川水系流域委員会御中

04.12.06

徳山ダム建設中止を求める会・事務局

<http://tokuyama-dam.cside.com/>

近藤ゆり子

k-yuriko@octn.jp

12/5ダムWG：住民の声を聴く会について

増田さんが指摘された通り、「利水」についての報告がもっと早く出ていたら、貴委員会の議論はもっと早い段階で実りあるものとなっていたことでしょう。新聞報道であればほど繰り返し各利水者の撤退表明が報道されながら「撤退意思を通告する公文書が利水者から発せられなかった」ことも摩訶不思議であり、それを河川管理者が「精査確認」するのにかくも長き時間を要したこともまた不思議。単なる「怠慢」を超えています。

その間も既成事実積み上がり、「地元」の苛立ちは募るばかりでした。とても残念です。

発言者を選んで頂いたことには感謝しています。しかし、

1) 私のような者が選定されたことも含めて「住民の意見を聴く」ことになったかどうか、若干疑問です。

あの場で知った限り、建設省OBが2/10も居ました。一人くらいはともかく、その割合が高すぎないでしょうか。河川管理者サイドで様々なことに手を染めてきたご当人の言い分は「住民の意見」でしょうか？

2) 猪上氏が「0か100か早く答えを出せ」というのは、よく理解できます。いつまでもヘビの生殺しのようなことをしてはならない。

貴委員会は「中間とりまとめ」「提言」において、ダムを最後の選択肢として位置づけました。ダムの弊害云々以前に「必要性」すら未だ明らかでない（ようやく明らかになりつつある「利水」は「ダムは不必要」という結論に傾くものです）以上、「0」として次の委員会に引き継ぐのが現委員の責務と感じます。

3) 酒井氏、猪上氏は「水没住民は一刻も早くダム運動完成を望んでいる」とおっしゃいます。それは水没住民の本音でしょうか？

私は全戸移転・廃村という徳山村民に向き合いつつ、あえて「中止を求める会」として運動を創って来ました。（「考える会」でも「反対する会」でもありません。全戸移転・廃村という不可逆的な既成事実の上で、今さら「考える」などと間拔けたことは言えない、初めて計画を知ったというわけでもないのに「反対」というのは30年遅い。これまで沈黙してきた自らと向き合う意味も含めてあえて「中止を求める」としました）

徳山村民も「公式」には「ダム早期完成」という人は多いです。しかしそれは「こんなに苦しいから早く殺してくれ」と言うのと同じなのです。馴染んだ故郷の水没を望む人が居るものですか！ 個別にお話を伺えば、それぞれ「推進派」の方も「慎重派」の方も胸中複雑なものがあり、「一刻も早く完成を」一点張りではありません。

4) 過去において「国がいったん決めたことは絶対に覆らない」という前提で「説得」という名の強制が行われました。苦しい、納得できない、という思いが強かったからこそ、「説得」に長い歳月がかかった・・・ダムには人権侵害がつきまとう、という証左です。「説得」のキーポイントは「下流住民のため」でした。「下流都市部の発展のため」に山村が犠牲になるのは当然、という社会風潮が厳然として存在したのです。「下流住民のため」という言葉で無理矢理自分を納得させた方々にとって「下流はダムは要らないと言っている」というのはどうしても腹に落ちないであろうことは理解できます。

また、酒井氏のご発言などを聴くと、河川管理者はダム計画について、「これまできちんしたと説明して来なかった」ことが見えます。(不特定補給と新規利水を混同されているように思いました)

そして「もうダムは要らない」ことが見えてきた後も、ずっと計画をリストラ出来なかった河川管理者には大きな責任があります(「それなりの努力」は認めますが、結果責任というものがあります)。河川管理者は「もうダムは要らない」ということにつき、地元住民に対して、まさに「死力を尽くした説明責任」を果たすべきです。

それには、「ダムを作る」ことを前提に遅らせてきた社会基盤整備を優先的に実行すること、精神補償的なものも考慮することも含まれます。

貴委員会は、多分その方向性もまた示す責務があるでしょう。

5) 徳山ダムの場合

私たちの会＝「徳山ダム建設中止を求める会」は1995年12月25日に発足しました。同年12月20日の「徳山ダム建設事業審議委員会」第1回会合を受けて、です。

ダム審の傍聴を通じてたくさんの「ご説明」を頂きました。おかげでいろいろ情報を得る－あるいは情報を得る手段を知る－ことが出来ました。

丸9年間、私は、一河川局からも水機構からも度として「徳山ダムは是非とも必要なのだ」という真剣なお話を聴いたことがありません。木で鼻を括ったような裁判の準備書面には、全くもって説得性はありません。

それどころか河川局の方の全く非公式なご発言としては以下のようなものを耳にしています。

- ・1998年頃「徳山ダムも時期が時期なら止まっていたのだけど・・・」(T氏)
- ・2003年夏 近藤「徳山ダム計画みたいなどうしようもない計画」。「おっしゃる通り」(K氏)
- ・2003年暮れ 「まあいろいろ問題はありますが、今からやめる、というのは非現実的だ

から仕方がないでしょう」(Y氏)

岐阜県職員からも非公式には似たようなご発言を聴いています。

「ここまでやってしまったから仕方がない」というだけで、イヌワシ5つ、クマタカ17つがいと棲息する徳山ダム集水域を不可逆的に自然改変するのですか？

「本体工事が進んでいるのに(利水の)専用施設がないダムは徳山ダムだけ」という「どうしようもない計画」が進むのですか？

すでに本川には横山ダムがあるのに、そのすぐ上流にドデカイ徳山ダムを作ることは、本当に治水に有効ですか？基準点万石で33%の流域面積を持つ大きな支流・根尾川の黒津ダム計画をわざわざ捨ててまで横山ダムの上流にダムを作るのでは、「ダムによる洪水調節は有効」とする立場からも「話が合わない」ではないですか？

徳山ダム建設費の追加予算のために「木曽川の河川改修19億円、長良川支流犀川排水機場改築3億円、岐阜県を主とする砂防事業費補助8億6000万円を削って、徳山ダムに回す」のは明らかに住民意思に反しています。漏水している堤防を十数年も放置しておいて、横山ダムの直上流の徳山ダムのお金を注ぐのは、治水面からも、明らかに「優先順位を間違えている」。

こういうことは「徳山ダムで最後」にして頂きたい。

6) 一刻も早く「ダム計画」をリストラし、真剣に代替案を検討して頂きたい・・

・財政的制約があるゆえ、時間がかかるのはやむをえない。だからこそ優先順位が問題です。

堤防にきちんとお金を回して下さい。私たち流域住民も、多少の冠水・浸水は受け入れます、土地利用のあり方を見直します。

水源地から海を結ぶ川を川たりえるもの(ただの水路ではなく)にすべく最後の努力をお願いいたします。